

# ニッポン ドクター和の 臨終区巻



先日僕は65歳の定年を迎え、  
〈町医者卒業ライブ〉を行いました。  
尊敬してやまない梅沢富美男  
さんを始め多くの人からお花を頂  
き幸福な気持ちに包まれました。  
植物に囲まれ暮らす日々など無  
縁の生活を送ってきました。しか  
し年をとると花や緑に癒された  
くなる気持ちはわかるようになり  
ました。そういえば、と思いつ  
し、以前患者さんからプレゼント  
された「京都里山暮らし」という  
本を本棚から探しあてた矢先、こ  
の本の著者であるイギリス出身の  
女性の訃報が届きました。  
京都大原の築百年の古民家に住  
み、ハーブ研究家として活躍、そ  
の暮らしを紹介したテレビ番組  
『猫のしっぽ カエルの手』(NHK  
HK)も人気を博したベニシア・  
スタンリー・スミスさんが6月21  
日、京都の自宅で死去されました。  
享年72。死因は誤嚥性肺炎と

311 ハーブ研究家 ベニシア・スタンリー・スミス

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウィルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』『けつたいな町医者』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

(PCA)。これは目の病気では  
ありませんが、視覚機能などに影  
響を与える神経変性疾患です。珍  
しい病気のため診断基準は確立さ  
れていません。  
失語や、記憶障害などの症状も  
出ることから、アルツハイマー型  
認知症と誤診されている例も多く  
あるようです。しかし典型的なア  
ルツハイマーよりも発症年齢が早  
く、50代〜60代前半で罹る人が多  
いという報告もあります。  
また、レビー小体病やクロイツ  
フェルト・ヤコブ病と関連してい  
るといふ知見もあり、まだまだ未  
解明の病気です。

夫で写真家の梶山正さんのエッ  
セーによればベニシアさんは20  
18年頃から「目がよく見えな  
い」と言うようになりました。眼  
科で「白内障」と診断され手術を  
受けましたが、回復しませんでした。  
その後、精密検査を受けて診  
断された病名は後部皮質萎縮症

落ち込むベニシアさんに、9歳年  
下の正さんは、細やかな愛情で答  
えていったようです。一昨年の  
「家庭画報」のエッセーで彼はこ  
のように書いています。  
〈多くの友人や訪問介護員さん  
たちが助けてくれるのを見て、僕  
は自分のことばかりを考えて生き  
るのは大人げないと思うようにな  
った(中略)。自分だけがやりた  
いことをやっても、それが幸せと  
は思えない(中略)。ベニシアが  
笑顔でいることが、僕の幸せと言  
える〉  
2019年にはご夫婦の共著  
で、『ベニシアと正、人生の秋  
に』(風土社)というタイトルの  
本を出版されています。



## 夫の愛に支えられて旅立つ

美しい庭に四季があるように、  
人生にも季節がめぐります。春や  
夏は一人で元気に生きられても、  
秋冬を迎えれば、添え木のように  
寄り添ってくれる誰かの手が必要  
になるものです。ベニシアさん  
は、目が見えなくなっても夫の愛  
に支えられて、人生の秋と冬の美  
しさを感じて旅立ったことでは  
う。